



作家  
元国際線乗務員  
**黒木安馬**

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)、『雲の上で出会った超一流の仕事の言葉!』(あさ出版)などがある。  
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 248

## 出稼ぎ外国人労働者と利権者たち

コロナ肺炎騒ぎの経済打撃で、有効求人倍率は1年前の1.57倍から1.06倍に急落し、完全失業者数も200万人を超えた。防疫で外国人入国者を制限する一方、ある職種の入国者数が増えている。法務省入国管理公表では、2020年11月から今年1月の2カ月だけでも、ベトナム人4万9,106人(35%)、中国人3万6,920人(30%)、韓国人4,384人(3%)、その他32%と、入国目的「留学・技能実習生」が圧倒的多数を占めており、2020年末時点で37万8,200人に達している。国の趣旨は発展途上国への技能移転や人材育成としているが、中国人より1万2,000人も多いベトナム人実習生の実態は、日本の人手不足を補うための、留学生を名目にしただけの「短期出稼ぎ単純労働者」であって、この5年間で2倍以上に増えている。その労働者たちは、長時間労働と低賃金や残業代未払いなど人権侵害にも等しい劣悪な環境に置かれることもあり、職場から失踪や不法就労、そして“子豚盗難事件”など犯罪に走る者も少なくない。

ベトナムはフランス植民地であった歴史的影響も含めて民度も技量能力もかなり高い。現在のベトナム人実習生たちは、現地では月収3万円以下の貧しい若者たちで、送り出し業者に支払う手数料が100万円!という莫大な借金を背負って日本に来ているから、文句も言わずに日夜必死に働かなければ返済できないというアリ地獄に陥る。実習生を受け入れる企業から斡旋料として1人当たり月5万円を徴収している日本の監理団体がある。人手不足に悩む中小企業、暴利をむさぼるベトナムの送り出し業者と斡旋監理団体の利害関係が一つになっている。

中国と同じく、ベトナムも官民間問わず賄賂と汚職が蔓延している社会だが、397社もある送り出し業者は国から許認可を受けるためには1,000万円以上の賄賂が必要で、さらに認可されても旧正月など祝い事がある度に官僚1人当たり10万円を要求される賄賂接待が待っており、役人は一度の接待で月収以上の収入になる汚職構図である。22万人の実習生輸出から得る手数料100万円は総額2,200億円となり、ベトナムの一大産業だから政府は口出ししない。日本の監理団体は頻繁にベトナムに“視察”に通う。現地では送り出し業者の接待が待っており、実習生1人当たり平均20万円のキックバックが、表面に出ることのない現金で渡される。日本企業が欲しいのは低賃金の出稼ぎ労働者であり、ベトナムは日本から観光客や投資を呼び込みたいのが実情。

そこで、日本旅行業協会会長の地位にある二階俊博・自民党幹事長は、2020年1月に旅行・観光業関係者1,000人以上を引き連れてベトナムを訪問している。二階氏は、グエン・スワン・フック首相・国家主席と固い握手をしながら、日本でのベトナム人の就労拡大を合意した。そして、10月には菅義偉総理大臣が就任後初の海外訪問先に選んだのもベトナムだ。監理団体「公益財団法人・東亜総研」、外国人労働者等特別委員会の委員長は、地方創生・規制改革・女性活躍大臣を務めた、二階派の片山さつき・参議院議員。日本ベトナム友好議員連盟会長は、中共との太いパイプだけでなく、最もベトナムに影響力を持つ男、二階俊博氏なのである。私は、上海万博準備工事中の下見視察で数日間も二階氏に同行したことがある!